

## 小田原市文化振興ビジョンの策定について（概要版）

### 《序章》

#### 文化とは何か

文化という言葉は、極めて広範な概念を含んでおり、音楽や演劇、美術などで表現される芸術文化だけでなく、衣食住をはじめとした生活文化など、人間が作りだした営み、私たちの暮らしそのものが文化といえます。

#### 文化振興の意義とは何か

文化振興とは、豊かな文化を創造し実感できる環境を整え、充ち足りた思いで暮らせるように生活の質を高めるとともに、文化を通して、社会や経済をよりよいものに高めようとすることです。文化は、「人とまち」にはたらきかけ、未来への希望をもたらしてくれます。

### 《第1章》

#### 小田原らしい文化とは

小田原には、豊かな自然環境、魅力的な歴史・文化資産、伝統的な地場産業など、宝と呼ぶにふさわしい特性が数多くあり、それを伸ばしてこそ、より魅力的で小田原らしい文化が育ちます。

##### （1）暮らしとともにある文化

古くから城下町、宿場町として栄えた小田原では、文芸や芝居、茶の湯などに親しみ、豊かな文化の中で暮らしてきました。このように芸術文化を生活の一部として楽しむ人が増えることで小田原のまちの品格が培われてきます。

##### （2）伝統と革新が息づく文化

小田原の文化は、人が行き交う中で発展し、産業、芸能や生活の中にも息づいています。このように小田原の歴史、風土で育まれてきたものを土台に、新しいものを創造する繰り返しが独自の魅力的な文化を育て、小田原らしさが増していきます。

##### （3）多様さを生かしあう文化

小田原の豊かな地域資産はまちのイメージを曖昧にするもありますが、この多様性、重層性が小田原の文化の特色でもあります。多様さを個性として、例えば寄木細工が美しい模様を織り成していくように生かしあうことで、小田原の文化の奥行きが深まります。

## 文化振興ビジョンで目指す小田原のすがた

豊かな文化を背景として、「希望と幸福感を持って暮らすことができるまち」をつくること  
が、文化振興ビジョンの大きな目的です。希望と幸福感を持って暮らすことができるまちと  
は、今、豊かな心で暮らせるまちであると同時に、将来への夢を抱けるまちでもあります。

### (1) 人～互いを認め合い、コミュニティの絆を結ぶ

東日本大震災を契機に、人と人との絆の重要性が再認識されています。地縁社会が希  
薄になった現代社会では、人を惹きつける力がある文化を核として、人と人を結び付  
け、多様な世代、多様な背景を持つ人々が集まる新しいコミュニティが築かれていき  
ます。人は、それぞれ多様な価値観を持つものですが、本当に強い絆は、異なる価値  
観を排除せず、互いを認め合う寛容さや柔軟性を通じて培われます。文化が育む共感  
力は、多様な価値観を受け止める力を育て、コミュニティの絆を強くします。

### (2) まち～小田原という都市ブランドを高める

都市ブランドは、その都市の個性や独自性から想起されるイメージであり、それが信  
頼感や好感を与え、認知度が高まり、競争力が増していきます。地域特有の資源を、  
文化によって育まれた創造性で磨き、外へ向かって発信していくことで、小田原のブ  
ランド力が高まります。個性ある都市ブランドは、様々な生産物の価値を高め、経済  
面でも貢献します。文化が育む創造性は、地域の経済活動に不可欠な付加価値を高め、  
都市としてのブランドを確立します。

## ＜第2章＞

### 課題と取り組み

#### ○課題

- ◆コミュニティの強化
- ◆地域経済の活性化
- ◆郷土愛を育む環境の醸成
- ◆行政の文化に対する取り組みの強化
- ◆芸術文化創造拠点の整備
- ◆担い手や後継者の育成
- ◆情報発信力等の向上

#### ○施策の方針と取り組み

##### (1) 芸術文化を身近なものにする

芸術文化をはじめとして、様々な文化が身近に感じられる環境を整え、人としての成  
熟やコミュニティの絆を促すとともに、まちの魅力を高めます。

- ・多彩な文化事業を行う
- ・文化が育つ場所を創る

#### (2) 志ある人を育てる

個の喜びをまちの喜びに広げていくため、まちを愛し、公共の幸せを願い、責任と自覚をもってまちづくりを担う、志ある市民を育てます。また、高いレベルを持ち、プロフェッショナルとして活動できる人材を応援していきます。

- ・小田原を知る
- ・文化の担い手を育てる

#### (3) まちの魅力を磨く

社会情勢の変化の中、厳しさを増す都市間競争で、小田原の優位性を高めるため、芸術文化の視点から地域資源を見つめなおし、新たな付加価値を引き出します。

- ・地域資源を生かす
- ・まちの記憶を伝える

#### (4) 小田原を発信する

市内外に向けて戦略的な情報発信をし、小田原という都市ブランドの認知度を高め、人を呼び込みます。そのためにも、市民一人ひとりが広報パーソンの意識を持つと同時に、行政等の機関が主体となって広報活動を行い、都市セールスの効果を高めます。

- ・小田原の文化を演出する
- ・交流を拡げる

## 《第3章》

### 推進体制と効果測定

#### ○推進体制

文化振興ビジョンを推進するためには、文化振興施策を把握し、実施される文化事業全体のバランスや文化団体間の連携支援等を継続して検討する組織が必要です。また、市民や関係者が継続して意見交換、交流する機会を設けるのも一つの方法です。

行政に関しては、縦割りではなく横の連携体制を構築する必要があります。

#### ○効果測定

文化活動は、常に鑑賞者を意識することをはじめ、文化と社会・経済の相乗効果を把握し、促進するためにも、絶えず評価を行うことが重要です。参加者や関係者へのアンケート等内部評価とともに、全く関わりのない市民等の外部評価も行うなど、多角的かつ長期的な効果を測定する必要があります。

《文化振興ビジョンの体系》

目指す都市のすがた：希望と幸福感を持って暮らすことができるまち  
人～互いを認め合う「絆」社会 / まち～小田原という「都市ブランド」

《特徴》

《方向性》

《視点と課題》

《施策の方針と取り組み》

4

小田原の宝

- 豊かな自然環境
- 優れた交通利便性
- 魅力的な歴史・文化資産
- 伝統的な地場産業やなりわい文化
- 市民の豊かな文化活動

小田原の宝を活かした文化の創出

小田原らしい文化

- 暮らしとともにある文化
- 伝統と革新が息づく文化
- 多様さを生かすあう文化

実現に向けた課題

視点：人

- コミュニティの強化
- 担い手や後継者の育成
- 郷土愛を育む環境の醸成

視点：まち

- 芸術文化創造拠点の整備
- 地域経済の活性化
- 情報発信能力等の向上

視点：文化政策全般

- 行政の文化に対する取り組みの強化

課題を解決するための取り組み

- 芸術文化を身近なものにする
  - 多彩な文化事業を行う
  - 文化が育つ場所を創る
- 志ある人を育てる
  - 小田原を知る
  - 文化の担い手を育てる
- まちの魅力を磨く
  - 地域資源を生かす
  - まちの記憶を伝える
- 小田原を発信する
  - 小田原の文化を演出する
  - 交流を拡げる

推進体制と効果測定の検討